地域づくりセンター瓦版

「徳島大学・美波町地域づくりセンター」開設

美波町と徳島大学の間で７月１日、人口減少、津波防災の課題を抱える美波町において、持続可能なまちづくりをテーマとして連携し、防災や地域づくりなどに関する知的・人的資源の活用と交流を図る協定が締結されました。

その活動拠点として、由岐支所３階の旧由岐町議会事務室に「徳島大学・美波町地域づくりセンター」が開設されました。センターでは、行政、大学、住民の協働による持続可能なまちづくりを推進しながら、地域に根ざした人材養成の研究と実践が行われます。

平成25年度は、徳島大学大学院生が駐在し、住民の皆さんからの防災に関する相談に応じたり、自主防災活動や事前復興まちづくりの支援を行うほか、同大学の町を訪れる学生や研究者が利用することになっています。

事務室横のオープンスペースは、日頃から住民の方々や訪問者が交流できる“しゃべり場・憩いの場”として活用します。今後、“お遍路さん”への津波防災情報の案内なども行う予定です。

センターは、駐在者が所用で不在の場合を除き、午前９時～午後５時まで開設していますので、お気軽にお立ち寄りください。

「小部博正さんの事前復興絵地図展」開催

センターのオープン記念として、７月29日（月）から８月26日（月）まで、NPO法人日和佐まちおこし隊＆デザイナーの小部博正さんによる、海部郡内の主な地域の絵地図を展覧します。

なぜ、絵地図展なのかと言いますと、現在、東北被災地では、自分達のまちをどのように復興させるかを考える際、被災前の町並みの写真や、人々の記憶でまちを復元し、議論の題材にしています。つまり小部さんの温かみ溢れる絵地図は、絵画としての素晴らしさはもちろんのこと、私達が南海トラフの地震で被災した際、まちの復興を考えるために必要な町並みの記憶資料としても大変貴重なものと言えるからです。

小部さんの絵地図を見ながら、私達の故郷の良さを再確認すると共に、被災する前の時間と余裕のある今、来るべき巨大地震からまちをどのように復興するか、事前に考える機会にしてください。